

Eat Well, Live Well.



アジア・モンスーン作業部会（第2回） ～取組み方のご提案～

2022年 3月23日

味の素株式会社

1. アジアでの農業支援の当社活動
2. アジア・モンスーン地域の取組みの背景
3. アジア・モンスーン 価値共創エコシステムのコンセプト (案)
4. エコシステム参加者の役割と機会
5. エコシステム参加者の考え方
6. エコシステム構築のロードマップ
7. エコシステム構築 第一歩に向けた協議事項

アジアでの当社グループの農業支援の事例

第1回作業部会資料 再掲

持続可能な農業に貢献するバイオサイクル(循環型アミノ酸発酵生産)

地域の農業を豊かにしながら持続的に農作物を調達する資源循環型アミノ酸発酵生産方法（バイオサイクル）を、食資源の安定的な確保の実現および持続可能な農業への貢献方法の一つとして、世界各地の発酵工場で導入。

アミノ酸生産の主原料



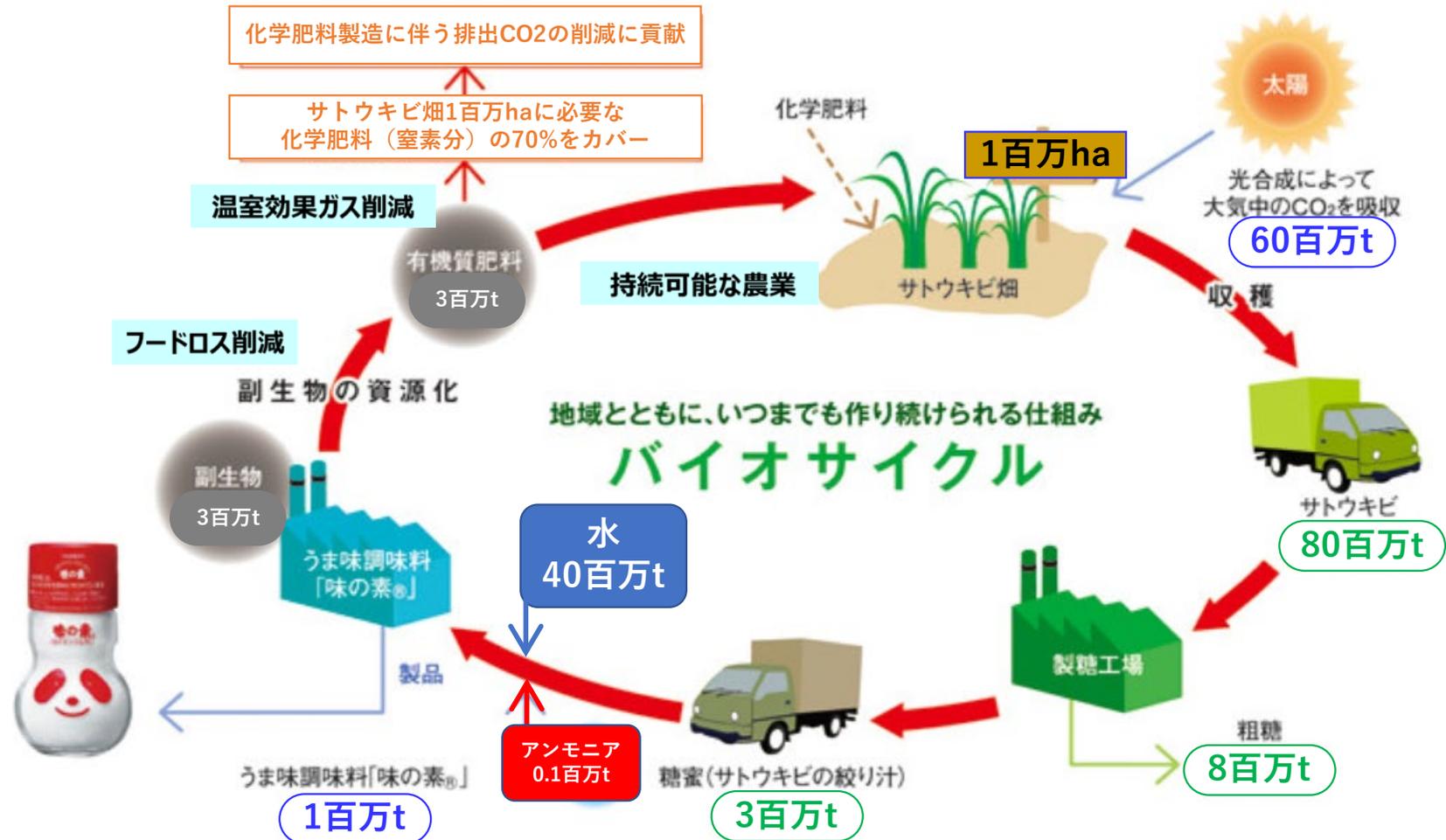
サトウキビ



トウモロコシ



キャッサバ



アジア・モンスーン 地域での取り組み背景

➤ 世界の状況

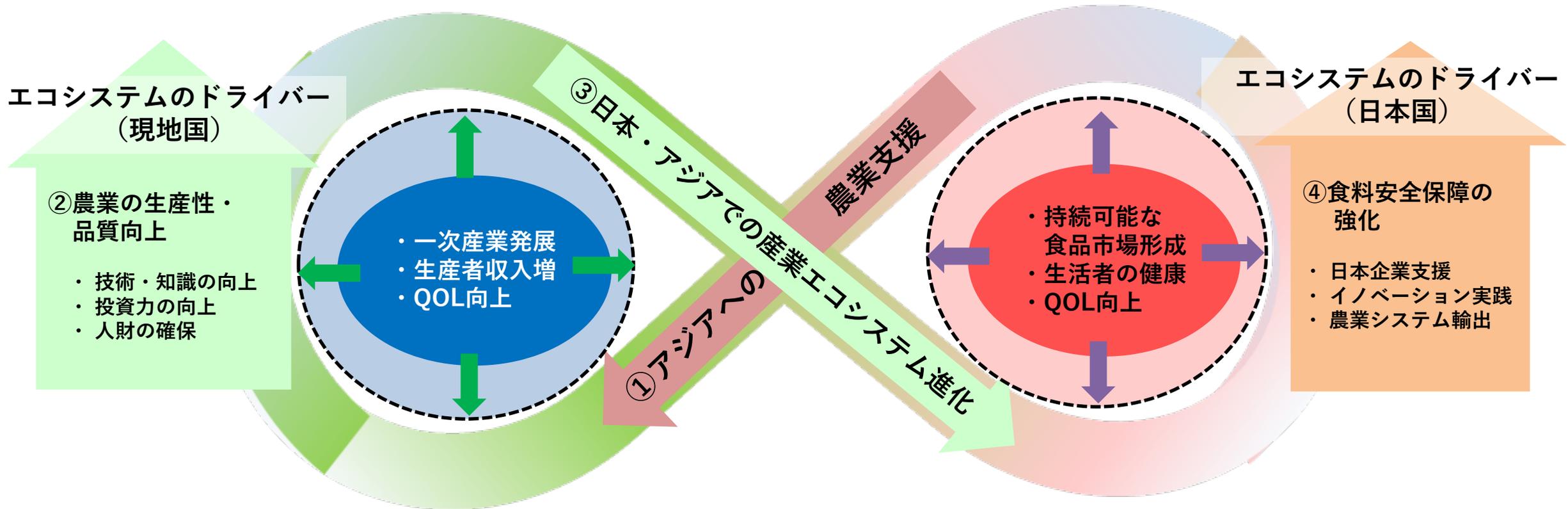
- ✓ 地球環境の限界と食料供給の限界が迫る
- ✓ 各国の食料安全保障問題
- ✓ 国を超えた協力、Win-Winの協力が必要

➤ 始まる取組み

- ✓ フードシステムの再構築と強靱化
- ✓ 生産性の飛躍的向上の余地と取組み（スマート農業、人財育成）
- ✓ 産官学での国を超えた協力・取組の増加
- ✓ あらゆるレベルで、競争から共創の時代へ変化

アジア・モンスーン 価値共創エコシステムのコンセプト（案）

アジア・モンスーン地域の農業生産性・品質を向上し、これによって持続可能な食料システムを生み出し強化し続ける、持続可能な産業エコシステムを共創する。



エコシステム 参加者の役割と機会

		政府・国際機関	農家 (+生産者団体)	企業 (食品製造)	企業 (商社)	アカデミア	NGO
アセアン諸国	役割	<ul style="list-style-type: none"> ● エコシステムの2国間承認 ● 制度面のバックアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 農産物生産の高度化、安定化 ● 持続的な生産 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生産者の技術、資金の安定化を支援 ● 生産者の組織化バックアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 適正価格で購入 ● 品質保持ができる設備・流通網の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生産技術の開発 ● 技術の有効性検証 	<ul style="list-style-type: none"> ● NGO同志のネットワークを活かしたリテラシー向上
	機会	<ul style="list-style-type: none"> ● 国・地域の社会、経済の発展 ● 国・地域の環境・人権・生物多様性の保護 	<ul style="list-style-type: none"> ● 収入向上・安定による生活向上 ● 地域での後継者の育成・確保 	<ul style="list-style-type: none"> ● 原料の品質安定に伴う生産性向上 ● 信頼向上と事業機会の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高品質な農産物入手 ● トレーサビリティ確保 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国・地域のリテラシー向上への貢献 ● 関連する科学技術の実証と向上 	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動のスケールアップ ● 共感するメンバーの拡大
日本	役割	<ul style="list-style-type: none"> ● エコシステムの2国間承認 ● プロジェクト運営の国レベルの障害軽減 	(※現時点では農家自体は、検討対象外)	<ul style="list-style-type: none"> ● 直接、または進出法人を通じたリソース提供 	(※役割と機会は、アセアン諸国と日本で同じ)	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本の技術・ノウハウの提供 	(※役割と機会は、アセアン諸国と日本で同じ)
	機会	<ul style="list-style-type: none"> ● 食料安全保障の強化 ● 食品産業の強化と育成 	(※生産者団体の関与はあり)	<ul style="list-style-type: none"> ● 農産物の安定・継続的な獲得 ● 購入農産物の品質安定・向上 		<ul style="list-style-type: none"> ● 技術応用範囲の拡大 ● 技術力に対する投資・収益獲得 	

エコシステム 参加者・進め方の考え方（初期案）

1. 現在、現地で自ら活動し、イニシアティブを発揮している組織。
⇒ 初期は、エコシステムの始動に自前の投資が必要。支援や補助に頼らず自律的な活動ができる余力のあるメンバーで始める必要がある。
2. 将来のエコシステム拡大フェーズに向けて、以下1～4の全ての参加者を巻き込み構築を開始する。
⇒ 1) 国・地域、2) 生産者・団体、3) 企業、4) アカデミア、5) NGO
3. 23年にスピーディーに取り組み成果を出す目標を共有する。
⇒ 早い段階で一定の成果を出すことで、参加者、構成メンバーが入れ替わる中でも持続的にエコシステムへの取り組みが持続されやすくする。

エコシステム構築に向けたロードマップ°（案）

メンバー
巻き込み・設定

- ・ エコシステムに参加するメンバーの活動組織、企業の候補を定め、役割、ケイパビリティ、ニーズ、メリットを確認する。

エコシステム骨
格構築

- ・ メンバーのニーズ、メリットに基づきエコシステムの骨格を構築する

システム
サイクル促進

- ・ 構築したエコシステムの活動を行いながら、サイクルの促進策を重ねていく。

エコシステム構築への具体的着手に向けて決める事

1. 着手する対象国を定める：
ASEANのどこにするか（例 タイ、インドネシア）
2. 対象の農産物いくつか定める　：
キャッサバ、サトウキビ、フルーツ
（必ずしも、同一農産物で取組まなくてよい可能性）
3. 日本側だけでなく現地の窓口を定める：
現地法人、現地の当事者

Eat Well, Live Well.



AJINOMOTO®